

働くことが健康！やる気があれば誰でも大丈夫です



小笠原 弘一さん (79歳、南ヶ丘)
①障子・ふすま班 ②13年目 ③建築業

妻との二人暮らしです。ここの良いところは、融通が利き自分の時間が持てることです。現役のときは工務店で建具の仕事でしたので、ふすま、障子の張替えや網戸の修理などを行っています。ふすまは、1日で4枚完成します。障子ふすま班の班長をしています。この作業は、4人でしています。

シルバー人材センターで長くやるにはお互いに信頼感を持つことと、楽しく働くことです。あまりに仕事が多いと忙しくて困ることがあります。健康で働けるうちは続けたいですね。



齊藤 昭一さん (62歳、東台4区)
①障子・ふすま班 ②2年目 ③木工職人

40代で妻を亡くし、今は両親と3人で暮らしています。以前働いていた職場の先輩に誘われ

て、シルバー人材センターの会員になりました。月に15日から20日くらい働かせてもらっています。

慣れない作業ですので、覚えることばかり。難しいところもありますが、大変なことは無いのですし、作業は面白いですよ。それに何より、みんな良い人ばかりで辛いことは無いです。月に3万から4万円ぐらいの配分金をいただけてますが、生きていってやりますからね。まだまだ見習いですが、これからもっと先輩たちに教えてもらって、腕を上げたいと思っています。



村田 好一さん (72歳、南たつみ町)
①庭木班副班長 ②10年目 ③公務員

シルバー人材センターへは、庭木の仕事や盆栽が好きで興味を持ったのがきっかけでした。退職して2年ぐらいいは旅行したりしていました。そのうち毎日退屈で、自分で電話して会員になりました。こうして働くことで健康になれると思っています。日曜日、祭日、雨天は休みで、6月から9月までは剪定作業、

11月から約1ヵ月半の間は冬囲い。好きでなければ続けられないでしょうね。夏の暑いときや冬の寒い時期は辛いですが、自分で完成したのを見るときはうれしいですね。そのために、できるだけきれいに仕事をしたいと思っています。脚立を使つての作業が一番危険なため、安全第一で作業しています。あと1、2年は続けたいと考えています。



近藤 正昭さん (66歳、南ヶ丘)
①庭木班 ②3年目 ③印刷業

庭木の仕事は、42年間してきた印刷業の仕事とは違いますが、若い頃から庭木いじりが好きで、家では盆栽をしています。自分から進んで入りました。庭木の技術は先輩から受け継ぎますが、それがこの良いところ。難しい縄の結び方などがありますが、それを覚えるのが楽しいですね。体は、こうして動いていけば健康になれるんじゃないですか。あせらず、あわてずやるのが、長くやっていくことだと思います。

す。今後この調子でこなしていきたいと思います。目標はあと10年です。やる気と興味がある人なら、誰でもできますから、他の人にもぜひ勧めたいですね。



伊藤 アヤ子さん (67歳、獅子ヶ森1区)
①監事 ②3年目 ③経理事務員

私は、何か世の中にお手伝いできればとの思いがきっかけで入ったんです。様々な職種だったかたが集まり、会員同士教え合つて、人生が豊かになりました。勉強しがいがあります。何より、皆さんとお会いできるのが楽しいんです。ここは、情報交換の場(笑)!! 健康のこと、暮らしのこと、何でもすべ

ての面でお話しできます。 監査の仕事は、不正が無い、か、正しく事務が行われているかを会議で話し合っています。人は十人十色で、悪い人はいないと思うので、その人の良い所を見つけることが大切だと思います。

- ①作業班・役割 ②経験年数 ③以前の職業

働く意欲に 満ち溢れていました

初めてシルバー人材センターを訪ね、皆さんから直接お話を伺うことができました。ご協力いただき、ありがとうございます。

取材を通じて、シルバー人材センターの仕組みや役割を理解することができました。考えていた以上に会員の皆さんはとてもお若く、パワーでエネルギーが豊富！働く意欲に満ち溢れていました。

皆さんのお話からは、老いに抗するのではなく、老いを受け入れ、日々淡々と暮らしていく強さのようなものも感じました。経験豊富で貴重なお話しに思わず取材を忘れ、しばらく耳を傾けてしまいました。

退職後のセカンドライフに対する考え方はそれぞれ異なりますが、多くのかたが、退職後も何らかの仕事に携わっていきたくて思っていると感じました。

現実には、とても厳しいのかもしれませんが、シルバー人材センターは、それを実現する一つの選択肢として、とても有効な機関であると実感しました。 私たちも会員の皆さんの若さとパワーに負けないよう、これからも学習に励んでいきたいと思っています。